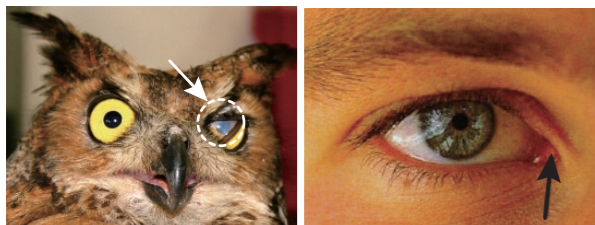




頭部には、こんなに痕跡器官があるんですよ！

だいさんがんけん 第三眼瞼

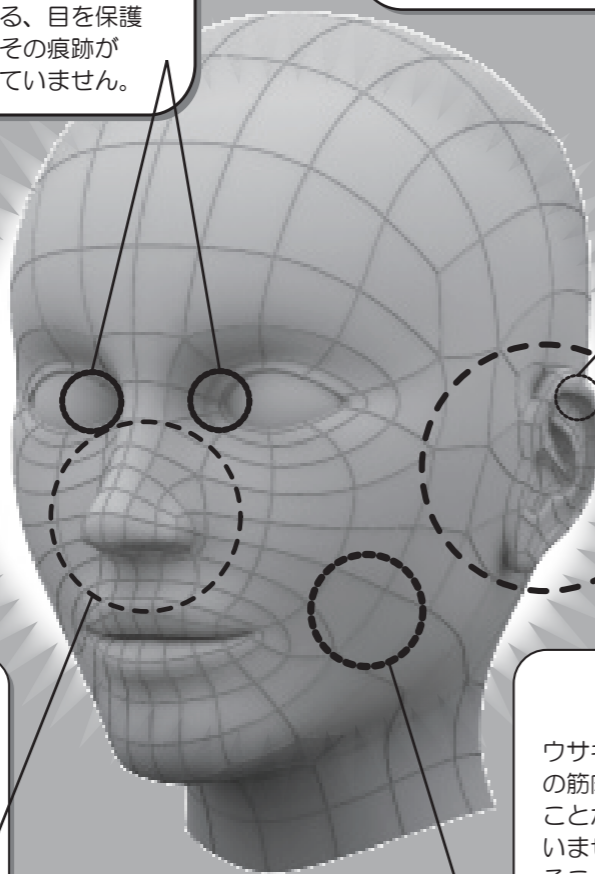


鳥類や爬虫類では「瞬膜」と呼ばれる、目を保護するための膜です。人の場合は目頭にその痕跡が残っているのみで、膜の役割を果たしていません。



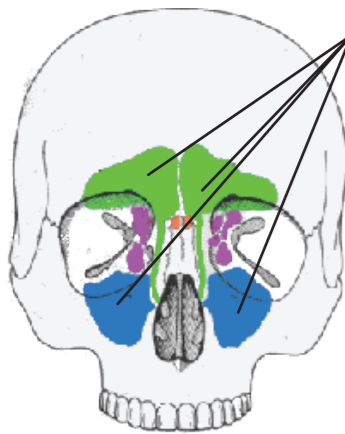
ダーウィン結節

耳先の少し厚くなっている部分。これは昔遠くの音を聞くために大きく尖っていた部分が折れ曲がって残っているもの、とされています。



じょびき 鋤鼻器

鼻の中に存在して、一般的な嗅覚を感じるのではなく、フェロモン様物質を受容するためのものと考えられていますが、人ではその機能を果たしていません。

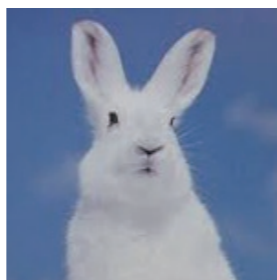


ふくびくう 副鼻腔

鼻腔に隣接した骨の中に作られた空洞であり、ヒトでは前頭洞、篩骨洞、上顎洞、蝶形洞の4つがあります。頭部は①脳を入れる容器 ②口腔 ③鼻腔を形成する部位が一つになったものです。これらの3つをもってひとつの頭部を形成するに当たって、各部品の大さを揃えるために発生したものが副鼻腔です。つまりただの空洞です。それ自体が何かの役に立っているわけではありませんが、この空洞があることで、上記①②③以外の部分の骨組織を節約でき、頭部の重量を軽くできるというメリットがあります。

じどうきん 耳動筋

ウサギや犬のように、先行人類はこの筋肉を使って耳を片方ずつ動かすことが出来ましたが、現在は使っていません。ただ、訓練によって鍛えることができます。



親知らず (第三大臼歯)

言わずと知れた親知らず。植物を咀嚼するのに使っていましたが、現在では健康に生えそろう人は5%しかいないとのこと。

P 逆に、近年にないその役割が見直されてきたものもあります！

盲腸

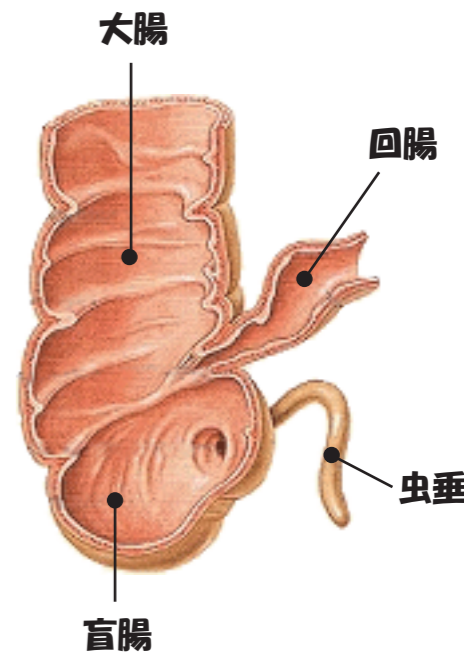
かつて「盲腸炎」と呼ばれていたものが、実は「虫垂炎」なるものであることを知り、盲腸＝虫垂だと思っていましたが、実はこれ、それぞれがきちんと存在します。盲腸は小腸と大腸の境目にあり、虫垂はそこにぶら下がる形でくっついています。

元々、哺乳類では消化しにくい植物を食べるため、消化管をいくつかの袋に分けて「発酵タンク」として栄養を摂りました。牛には4つの胃があるのはよく知られています。ウサギや馬は盲腸を発達させました。馬の盲腸はなんと長さ1メートル、体積は30リットルにもなります。この中にはたくさんの微生物が存在し、植物の繊維である「セルロース」を分解する役割を担っています。人はセルロースを消化できません。

ではなぜ、もはや役割を果たしていない盲腸(虫垂)がわずかに痕跡程度ですが残っているのでしょうか。

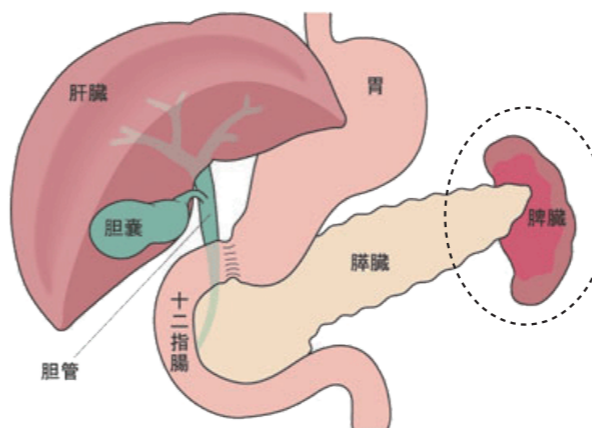
腸の内壁は極めて薄いものです。養分を吸収しやすい分、異物や細菌にも侵入されやすいのです。そのため腸の各所に免疫を担当するリンパ組織が配置されています。特に虫垂には集中されているのです。虫垂は奥まりすぼまった場所なので、食べたものがゆっくり流れ、十分に見張れる場所なのです。ですからここにリンパ組織を配置し、見張っているのです。全く無用と思われていた虫垂ですが、ちゃんと役割があったんですね。

ただ、虫垂炎の手術で虫垂をとってしまっても、それで体が弱くなるという事はありません。ではやっぱり不必要???



脾臓

脾臓(ひそう)は腹部の左上、膵臓(すいそう)に隣接する形で存在します。脾臓の役割は、免疫細胞を成熟させたり、古くなった赤血球を破壊したりすることです。しかしこの臓器を切除しても人は生きていくことができるので、特に重要なものだと考えられてきませんでした。



しかし最新の研究によると、損傷を受けた心臓の回復に欠かせない役割を果たしていることが判明したそうです。研究チームがマウスで調べたところ、多数の単球(単核白血球)が脾臓に貯蔵されていることがわかりました。単球は白血球細胞の一種で、免疫防御や組織修復に欠かせない存在です。今までは脾臓はほかの種類の白血球細胞と同様に骨髄だけで生成され、血流中に貯蔵されると考えられてきました。しかし脾臓の単球の量は血液中の10倍余りに及び、血液より圧倒的に重要な単球の貯蔵庫であることがわかりました。

研究の結果、マウスの心臓発作の回復に関与した単球の40~50%は脾臓に由来するものだったのです。心臓発作を生き延びるには、心臓機能が適切に回復する必要があり、その回復は損傷部位の修復に携わる単球に依存します。一方、脾臓を切除してから心臓発作を誘発したマウスの場合、蓄積した単球の数は大幅に少なかったとのこと。また、脾臓のない人は、脾臓のある人に比べて心臓病や肺炎で命を落とす確率が2倍も高かったという報告もあります。

お知らせ

☆12号ステーション・3号デイサービスを計画!!☆

平成22年度、ソフィアメディでは第12号訪問看護ステーションと第3号リハビリ型デイサービスを城南4区内に展開する計画です。地域の選択肢を広げ、さらなるニーズに応えられたらと願っております。詳細が決定しましたら、改めてお知らせいたします！



お問い合わせは ☎ ソフィアメディ(株) 5768-2853 まで